

夕陽の色は何色？

秋の夕陽は、紅葉や柿の葉をさらに赤く染めとてもきれいです。「夕陽の色は何色？」と聞かれてどう答えますか。赤色、^{だいだい}橙色、^{あかね}朱色、茜色、人それぞれに夕陽の色があります。辞書には、橙色は赤みを帯びた黄色、茜色は赤色のやや沈んだ色とありますが、^ひ柿色や^{からくれない}緋色、唐紅などとなるとぜんぜんわからなくなります。色の表現に加えて、言葉の響きから各人それぞれが色をイメージしているからますます混乱してきます。また、わたしが見ている夕陽の色は、わたしの目の網膜に映った色を脳が色として認識しているのだから、同じ朱色といっても他の人は夕陽の色をもしかしてまったく違う色として認識しているかもしれません。

学生の時に「僕は人の目など気にしない。人の評価に左右されたくない。自分の判断したように行動したい。」と話したとき、「おまえを正しく評価しているのは他人だ。他人を気にしないなどと言う謙虚さのない者は、自分を正しく評価することはできない。人は他人の評価を聞き、初めて自分を知ることができるんだ。」と友だちに言われ、なるほどなあと思ったことがあります。

ひどく理屈っぽい話になりますが、一緒に見ている夕陽の色が人それぞれに違い、自分が考え行動していることの善悪が他を通じてしか確認できないとすると、何を信じ何を頼りにしていけばよいのか当惑してしまいます。どうやら、自分と人は違う、人はそれぞれ違うということは当然のことで、同じということは希なのだと思うことが大切なようです。

会議などで、この違いに配慮していないために、出席者が困惑したり感情的な対立になったりすることが起こりがちです。それぞれの利害やそれぞれが得ている情報やそれまでの経験や性格などが絡み合って、人の判断や感じ方は様々です。それなのに、一致点を見出すために、民主的という理由で多数決で決めたり、責任を負う者が会議の出席者の意見を参考にして結論を出したりしています。会議の内容によって方法はいろいろあると思いますが、多くの人が賛成したからといって正しいとは限らないし、責任を負う者の判断ですべてが決まってしまうのも危なっかしい気がします。

4月から「たのしいたのしい 船穂校♪」などと勝手なことを言ってきましたが、そろそろみんな学校のことをしっかり話し合いたいと思っています。「学校はどんなところですか。」「船穂小学校の課題は何ですか。」「どんな子どもたちを育てたいですか。」考えの違いを大切にしながら、少数意見を無視せずに、全員がそれならばよかろうと折り合える話し合いができるといいなと思っています。

